

トランプ大統領による「グローバル・ギャグ・ルール」の再導入に反対します。

2017年1月23日、トランプ米大統領は、通称「グローバル・ギャグ・ルール（口封じの世界ルール）」¹⁾として知られる「メキシコシティ政策」を再導入する大統領令に署名しました。1954年創立以来、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の向上に努めてきた日本家族計画協会は、人権を侵害し、女性の命を危険に追いやるこのような政策に反対します。

過去においては、共和党大統領によって「グローバル・ギャグ・ルール」が導入された際、実際に起きたのは、人工妊娠中絶実施件数の減少ではなく、むしろ避妊法へのアクセスが激減することによって意図しない妊娠を増大させたことです。「グローバル・ギャグ・ルール」の再導入は、意図しない妊娠、予防できる疾患とそれを原因とする死を多数招くことになることが懸念されます。

本会は英国ロンドンに本部を置く IPPF（国際家族計画連盟）²⁾の加盟組織でもあります。その IPPF 創設者のひとりであるマーガレット・ヒンギス・サンガー（1879-1966年）が米国ニューヨーク市ブルックリンにバースコントロールクリニックを開設した罪で投獄されてから昨年は100周年という節目の年でもありました³⁾。「意図しない妊娠と出産がどれほどに女性を絶望の淵に追いやってきたか！ 男性支配を許してきたか」。サンガーの人生をかけたこの言葉が、IPPF 創設の原動力になったと確信しています。「グローバル・ギャグ・ルール」の再導入はまさに時代を逆行させる愚行と言わざるを得ません。

米国における政策転換が、日本にも影響を及ぼしかねないことを危惧しています。わが国の人工妊娠中絶届出件数は、1955年には117万件を数えていましたが、直近2015年度、統計史上初めて18万件を割りました⁴⁾。これを可能にしたのが地道に実施してきた避妊教育や確実な避妊法の普及であることは今更申し上げるまでもありません。その一方で、本会が2002年以降2年ごとに実施している「男女の生活と意識に関する調査」最新版（2016年）によれば、16歳から49歳の女性の10.4%が中絶を経験していますが⁵⁾、「経済的な余裕がなかった」という理由で最初の中絶を決めた女性が24.3%を数え⁶⁾、その一方で「自分にとって必要な選択である」というように中絶をリプロダクティブ・ヘルス/ライツとして捉えている女性は17.1%に過ぎませんでした⁷⁾。妊娠は男女の性行為の結果でありながら、諸般の事情で中絶を余儀なくされた際、女性のみがその責を負わざるを得ない現状を鑑みると、「グローバル・ギャグ・ルール」が女性の健康と権利を軽視していることは明白です。

本会としては、女性たちが自分のリプロダクティブ・ヘルス/ライツを行使して、確実な避妊法選択と安全な人工妊娠中絶にアクセスできるように今後も活動을續けて参る所存です。

2017年1月26日

一般社団法人日本家族計画協会 理事長 北村 邦夫

本声明に対するお問い合わせ先は、一般社団法人日本家族計画協会
家族計画研究センターまで 電話 03-3235-2694、fax 03-3269-6294

1) 【グローバル・ギャグ・ルール】とは

米国の資金を受け取っている外国のNGOに対し、自己資金であっても、人工妊娠中絶に関する情報・サービス・ケアを提供したり、中絶について議論したり、安全でない中絶を批判したり、本国政府の要請を受けてこれらの問題に取り組むことを禁止する政策（1984年、国際人口会議で発表）

2) 緊急声明：IPPF がグローバル・ギャグ・ルールに署名しない理由（IPPF）

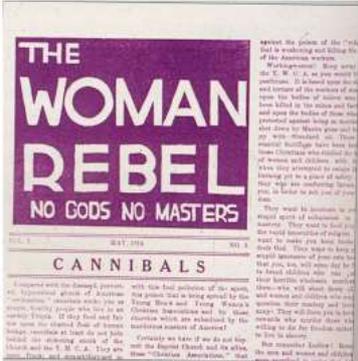
<http://jp.ippf.org/news/why-no-sign-global-gag-rule>

3)

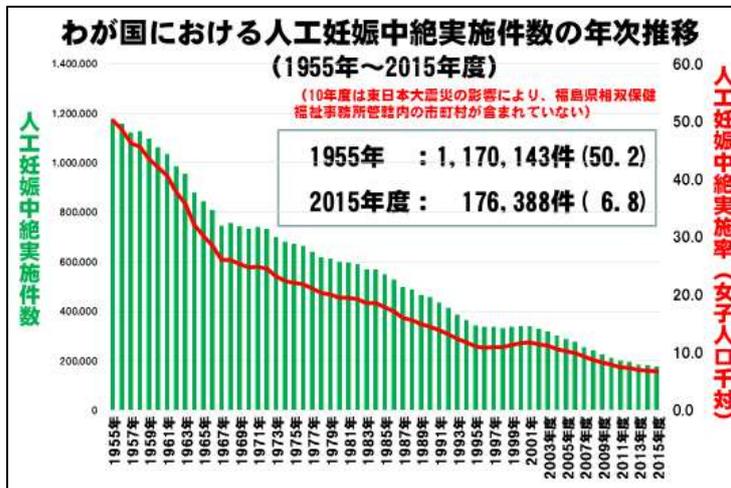


マーガレット・サンガー
 (1916年に米国最初の家族計画クリニックをBrooklyn開設するも、10日で閉鎖)

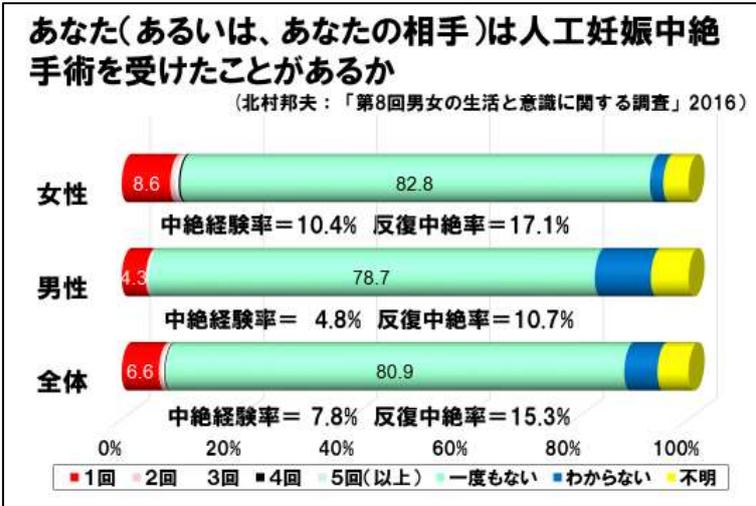
意図しない妊娠と出産がどれほどに女性を絶望の淵に追いやってきたか！男性支配を許してきたか



4)



5)



6)

最初の人工妊娠中絶手術を受けることを決めた理由(女性)

(北村邦夫：「男女の生活と意識に関する調査」2002,2004,2006,2008,2010,2012,2014,2016)

	2002年	2004年	2006年	2008年	2010年	2012年	2014年	2016年
該当数	154	145	110	122	135	102	81	70
経済的な余裕がない	19.5	17.2	16.4	15.6	13.3	15.7	24.7	24.3
相手と結婚していないので産めない	36.4	22.1	22.7	27.9	27.4	31.4	22.2	24.3
相手が出産に同意しなかった	-	-	-	-	-	-	9.9	7.1
自分の仕事・学業を中断したくない	-	9.0	10.0	6.6	7.4	8.8	8.6	8.6
育児していく自信がない	-	4.1	2.7	3.3	3.0	2.9	4.9	7.1
相手との将来を描けない	-	6.9	9.1	12.3	11.9	10.8	4.9	5.7
これ以上、子どもは欲しくない	9.1	4.1	7.3	3.3	4.4	6.9	-	4.3
身体が妊娠・出産に耐えられない	8.4	8.3	4.5	3.3	5.9	2.9	1.2	2.9
出生前診断の結果から決めた	-	-	-	-	-	-	-	0.0
相手が特定できない	-	0.7	-	-	0.7	1.0	-	1.4
相手のことが好きでない	-	1.4	1.8	2.5	0.0	3.9	-	0.0
この中にはない	26.6	24.8	25.5	23.8	26.0	15.7	23.5	12.9
無回答	-	1.4	-	1.6	-	-	-	1.4

7)

最初の人工妊娠中絶を受ける時の気持ち(女性)

(北村邦夫：「男女の生活と意識に関する調査」2004,2006,2008,2010,2012,2014,2016)

	2004年	2006年	2008年	2010年	2012年	2014年	2016年
該当数	145	110	122	135	102	81	70
胎児に対して申し訳ない気持ち	55.9	52.7	45.1	54.8	53.9	45.7	58.6
人生において必要な選択である	11.7	10.0	13.1	13.3	14.7	16.0	17.1
自分を責める気持ち	15.2	14.5	16.4	12.6	13.7	14.8	17.1
相手に対する怒り	0.7	1.8	2.5	3.0	1.0	6.2	2.9
自分の親に対して申し訳ない気持ち	0.7	1.8	2.5	2.2	2.0	3.7	1.4
相手に対して申し訳ない気持ち	0.0	0.0	0.8	0.7	0.0	3.7	1.4
これで解放されと思った	0.0	2.7	0.8	2.2	1.0	1.2	1.4
多くの女性がしているから構わない	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
覚えていない	2.1	0.9	2.5	1.5	2.0	2.5	0.0
この中にはない	13.7	17.4	16.3	9.7	4.9	6.2	0.0